

## 国語，数学Ⅲ 問題

はじめに，これを読みなさい。

1. 解答用紙には，あなたの受験番号が印刷されています。受験番号が正しいかどうか，受験票と照合して確認し，氏名を記入しなさい。
2. 「国語」の問題は裏面から始まります。
3. この問題冊子は，「数学Ⅲ」については表面から8ページ，「国語」については裏面から18ページあります(表紙の次の白紙2ページはメモ用紙として使用してかまいません)。必要な科目を選択して解答しなさい。
4. 解答用紙の「解答科目マーク欄」にマークし，「解答科目名記入欄」に解答する科目名を記入しなさい。マークされていない場合，又は複数の科目にマークされている場合は，この時限の科目は採点対象外となります。
5. 解答は，すべて解答用紙の解答欄にマークしなさい。
6. 1つの解答欄に2つ以上マークしてはいけません。
7. 解答は，必ず鉛筆又はシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入しなさい。
8. 訂正する場合は，消しゴムできれいに消し，消しくずを残さないようにしなさい。
9. 解答用紙は，絶対に汚したり折り曲げたりしてはいけません。
10. 解答用紙は持ち帰らないで，必ず提出しなさい。
11. この問題冊子は必ず持ち帰りなさい。
12. 試験時間は60分です。
13. (数学Ⅲ) 分数形で解答する場合は，既約分数で答えなさい。
14. (数学Ⅲ) 根号を含む形で解答する場合は，根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。
15. マーク記入例

良い例	悪い例
●	○ ⊗ ○

国語問題

(解答番号 1～29)

はじめに裏返して、表紙の注意事項を必ず読みなさい。

1. 「国語」の問題は18ページあります。
2. 「数学Ⅲ」の問題は反対の面にあります。





(一) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

グローバルゼーションの時代と呼ばれる現代において、国境を越える人の移動は、いわゆる移民研究だけでなく、多くの研究分野において重要な関心事となっている。多様化してきた移動の諸形態は、これまで自明とされてきた国民国家の揺らぎを解き明かすひとつの鍵であり、閉塞状況にある社会科学の諸分野にとつて、新しい枠組みを考える試金石である、と位置づけられているからである。

近代という時代は、Xを単位として、そのなかにナショナルな政治、経済、社会、文化といった装置を創りあげてきた、と考えられてきた。人の自由な移動を掲げた近代国家も、自由な移動の範囲は、基本的には、国境という境界に画された単位のなかに制約され、越境移動を含めた人の移動は、この単位を創りあげるための装置のひとつとしての役割を果たしてきた。

言うまでもなく、人が国境を越えるといっても、境界が先にあったのではない。境界線は、そこで生活する人びとは関係なく引き直され、国民の範囲はしばしば変更されてきた。人びとの活動範囲のなかに、人びとの意思とは関係なく、国境というナショナルな境界が画されてきたのである。いまでも越境が日常化している地域は世界中に数多く存在しているが、ひとたび国境が形成されると、人びとは、国内の移動とは異なる思いを抱いて、境界を越えざるをえない。

国民国家の展開過程において、境界内と境界外への移動は、政治的だけでなく経済的・社会的・文化的にも、次第に差異化されるようになる。伝統的農村社会から近代都市への移動、共同体の解体と都市化として表されてきた近代の国内的な移動に対して、境界を越える人の移動は、国家の直接的な介入をもたらし、送出し／受入れ国の規制を受けてきた。政治的な境界は、伝統と呼ばれるようになる言語を含めた文化圏、そして市場圏や貨幣圏などの経済活動の範囲といった境界を生み出し、そこを越える移動は特別な意味をもつことになる。近代における知の枠組みは、<sup>1</sup>暗黙のうちに、この境界を前提として、専門分化するとともに、体系化され、制度化されてきた。移民研究もそのひとつであった。

近代国家は境界を必要とし、越境する人を非日常として扱おうとしてきた。人の移動は、ときとして、国家によって社会的な



矛盾のはげ口として組織的に送り出され、また労働力不足に対応して組織的に導入が図られた。しかし国境を越える移動は、ナショナルな装置を創りあげるうえで不可欠であったとしても、国家にとっては、あくまでも一時的で、例外的な出来事とみなされてきた。例外であつたはずの国境を越える人の移動が、いま、これまでとは比較にならない規模で、資本やモノ、情報の移動とともに、ナショナルな境界を脅かしている。

国家による境界の形成と管理こそが、そして **Y** という困い込みが、越境する移動を特別なものにしてきたのであり、国家が、主権行為として、越境する人びとを管理してきたのである。境界を越える移動が特別な移動として区別されるところに、近代の移動の特徴があつた。しかし、あらためて言うまでもなく、ナショナルな単位は完結した閉鎖システムではありえず、国民国家の諸局面において、越境する移動はくり返されてきたのである。

近代における移動の多くは経済的理由にあるとはいへ、戦争を含む強制的な移動からなんらかの希望を求めての移動など、人が移動する理由や目的はさまざまである。所得格差や雇用状況などの経済的な理由はもつとも基本的なものであるが、貧困がかならずしも直接的に労働力の移動を引き起こすわけではない。戦争や災害を含めた国家間関係の展開や諸国家による政策によつて、国境を越える移動は、大きく規定されてきた。

また、輸送通信技術の発達は、人の移動やその管理の方法を大きく変えてきた。一九世紀後半の輸送通信技術の発達は、大洋を渡る移動を容易にした。出かけることが容易になるということは、帰ることも容易になる。戻ることを想定した移動が一般化することにより、「**Z**」に擬せられる還流型の移民が、資本主義移民の典型的な型と捉えられた。さらに、近年の輸送や通信手段の飛躍的な発達は、こうした還流型をも変質させてきており、その移動のあり方や意味を転換してきている。リスクを分散するために家族が世界各地での棲み分けを図っている移民、さまざまな場所に生活本拠をもつてシャトルのように移動する人びと、そのときどきの情勢に応じて移動を続ける移民などである。しかもこれらは、いわゆる高度専門家や企業移民などに限定されず、比較的低賃金の移民においてもみられる。

現代の移民を考える場合の前提として、輸送通信手段の発達が人の移動にどのような転換をもたらしてきているのかは、重要

な課題である。航空機による大量輸送やインターネットを通じた情報交換の時代において、人の移動は、移民研究や国際労働力移動研究あるいは難民研究がこれまで対象としてきた移動に限定できなくなっている。かつて命がけの飛躍でもあった大洋を越えた地球の裏側への移動も、今日ではきわめて容易になった。安全な輸送手段の発達と移動コストの大幅な低落は、移動そのものの形態や動機を大きく変えてきた。通信手段の飛躍的な発達は、移動手段とともに、なにが移動であるのか、場所とはなにか、という課題をあらためて提起している。インターネットなどの通信手段は、移動や移動後の生活のあり方に決定的な影響を及ぼしてきたのであり、現在では、経済活動に不可欠な情報だけでなく、個人的な日常生活情報が、映像化され、リアルタイムで容易に入手可能である。場<sup>2</sup>という感覚が失われているだけでなく、移動という感覚そのものが変容してきているのである。

表面的には地理的感覚の隔たりは消失してきており、越境的な移動が日常化してきたと言えるであろう。これまで「移民」として分類された人びとが果たしてきた役割は、いまでは観光やビジネスなどの多様な形態で容易に出入国をくり返せるようになり、統計的には、かならずしも移民として分類されない。また、物理的に移動しなくても、疑似的であるとはいえ、これまでの文字や写真の情報とは比較にならない方法で、移動経験を得ることが可能となってきた。このことから、あらためて、移動とはなんであるのか、移動を対象とすることによって何を解き明かそうとするのか、という問いが浮かびあがってくる。

人が移動する目的は、各々の時代的背景や地域的な差異あるいは政策によって、さまざまに分類可能である。「移民」という語も、移民 a 国であるアメリカでは<sup>\*</sup>“immigrant”を意味してきたが、日本を含めた移民 b 国では、海外へ出て行く移住者を指してきた。移動する人たちの「目的」、さらにアイデンティティに関しても、c 側の願望が反映され、類型化されてきた。そうした分類が、移民研究者や d 政策の側の作為であったことは、あきらかである。移民の分類は、そしてそれを「研究」することは、e 社会の必要から始まった。

グローバルゼーションと言われる時代に、「移動」そして「場所」が社会科学のさまざまな分野において大きな問題関心となってきた。しかしながら、受入れ社会の観点から移動を捉えてきた政策ならびに研究の作為性こそが、人の移動によると考えられてきた問題の把握を困難にしてきたのであった。移民との「共生」は受入れ側から唱えられ、移民の側から出てきたわけではな

い。移民は、しばしばナショナルあるいはエスニックなアイデンティティを問われるが、受入れ社会の人びとがアイデンティティを問われることはない。移民は、つねに政策側あるいは研究者の作為の対象に置かれてきたのである。言うなれば、送出し地域と受入れ地域との、見る側と見られる側との非対称性、分断あるいは隔離状況を前提とした移民理解であったといえる。

グローバリゼーションと呼ばれる現代の特徴のひとつとして、しばしば膨大な人の移動が指摘され、ふたたび「移民の時代」と言われている。しかし、人の移動への関心は規模のみにあるのではない。境界を越える人びとの移動が日常化し、誰もが「移民」となりうる、そして「移民」とかわりをもつ時代である。さらに、世界のもっとも高い所得水準にある地域と発展途上国のスラムなどの貧困に喘ぐ地域とが、直接に物理的に接続してきたのである。<sup>3</sup> さらに、世界のもっとも豊かな地域のなかにもっとも貧しい地域が生み出され、もっとも貧しい地域のなかに豊かな地域が形成されてきている。

今日においても、移民政策やシティズンシップは、送出し地域と受入れ地域との分断あるいは隔離状況を固定化するうえで、重要な役割を果たしている。しかし、その根幹において、国民国家を創りあげてきた装置が揺らいできている。人の移動は、グローバル化した現代社会の、そして現代世界の構造や変化を映し出すひとつの鏡である。いまという時代がどのような変化の時代にあるのか、グローバリゼーションとは何であるのか、人の移動という観点からは、そうした問いにどのような解答をすることができるのか、あらためて問う必要がある。

(伊豫谷登士翁「移動経験の創りだす場」による)

注

\*immigrant……(外国からの)移住者



問一 空欄  に当てはまる語句として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

。

- A 民俗的に分割した境界
- B 言語的に異なる共同体
- C 地理的に画された境界
- D 宗教的に異なる共同体

問二 傍線1「この境界」とは何を指すか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 。

- A 国境というナショナルな境界
- B 経済活動の範囲といった境界
- C 伝統と呼ばれる文化的な境界
- D 生活する人々と密着した境界

問三 空欄  に当てはまる語として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

。

- A 貨幣
- B 国民
- C 地域
- D 人種

問四 空欄  に当てはまる語として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

。

- A 伝書鳩
- B 出世魚
- C 回遊魚
- D 渡り鳥

問五 傍線2「場」という感覚とはどのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号

は 。

- A 近代的な都市では体験できないような伝統的農村社会の中の生活感
- B 地理的な隔たりの効果により生じる異国や未知の世界に対する憧憬
- C 日々の生活の営みを基盤として生まれる地域や土地に根ざした実感
- D 高度な通信技術によってもたらされた個人的な生活情報の生々しさ

問六 空欄

く

に当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマ

ークせよ。解答番号は 。

- |   |   |     |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| A | a | 受入れ | b | 送出し | c | 送出し | d | 受入れ | e | 送出し |
| B | a | 受入れ | b | 送出し | c | 受入れ | d | 受入れ | e | 受入れ |
| C | a | 送出し | b | 受入れ | c | 受入れ | d | 送出し | e | 受入れ |
| D | a | 送出し | b | 受入れ | c | 受入れ | d | 受入れ | e | 送出し |

問七 傍線3「さらに、世界のもっとも豊かな地域のなかにもっとも貧しい地域が生み出され、もっとも貧しい地域のなかにもっとも豊かな地域が形成されてきている」とあるが、それはなぜか。理由として最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は **7**。

- A 国家による管理を越えて常態化した人の移動によって、それまでの均質性が保存されない地域が形成されるから。
- B 人の移動が日常化したことにより、豊かな地域や貧しい地域といった場所の差異に意味がなくなってしまうから。
- C 経済格差は固定的なものではなくなり、国家の経済政策によって豊かな人と貧しい人が変動するようになるから。
- D 輸送通信手段の発達によって、多くの家族がリスク分散のためにあらゆる地域に分かれて暮らすようになるから。

問八 傍線4「国民国家を創りあげてきた装置」とはどのような働きをしてきたか。最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は **8**。

- A 輸送通信技術の開発によってもたらされたグローバル社会に適応し、文化的・民族的なアイデンティティにとらわれずに他者と共生が可能となるように、積極的に人の移動を推進した。
- B 国家を完結した閉鎖システムとするために、人の移動については厳しい管理を行い、産業資本の生産労働に従事する者だけを移民として受け入れることによって自国の経済を維持した。
- C 戦争や災害といった国家関係の展開や、諸国家による政策の歴史的な変動の影響を最小限に留めて国家の自立性を保つために、土地の空間的な特徴を生かした堅牢な境界を設定した。
- D 社会的な矛盾や労働力不足を解決するために人の移動を前提としていながらも、国境によって閉ざされた空間としての国家を創りあげるために、境界を設定して人々の移動を管理した。

(二) 次の文章を読んで、後の問に答えよ。

〈不幸な時代の記憶というものは、時の流れの河底に縋りつくように、いつまでも寄り添って離れないものだ。それだけでなく、たとえば谷崎の「人面疽」みたいに、時につれて凶々しく大きくなっていくことさえある。もう体中の疵が癒え、艶やかになった幸福な肌にあだ一点、人の貌をした腫れ物が残り、目に見えないほどにゆつくりと、成長していくのを見るのは怖い。その人面疽は、あるときは泣いているように見える。怨嗟の呻きを漏らしていることもある。気味悪く歪んだ唇で、夜中に嗤いつづけることだってある。どんな精神医学でも、〈不幸〉が癒りきるといふことはないのだ。ドイツトリツヒが昔歌ったように、何でも望みを叶えてやろうと言われたとき、人はためらいながら、〈あんなに素晴らしく不幸だった昔〉に還してくれと願うからである。

人生にこの逆説<sup>1</sup>がなかったら、私たちの毎日は、果てしなく野篁坊の砂地である。木々の翳りも、泉の水の輝きもなく、ただひたすらに白く明るい曠野である。そうして人々は **ア** を大切そうに胸に抱き、隊伍を組んで、こんどはほんとうに **イ** になっていくのだ。つまり、人はかつての恥辱、遠い日の痛み、いつまでも乾かない血の匂い、凶暴な憎しみ、手練り寄せても手練り寄せても尽きることのない怨み——そんな嫌なものたちを、歴史という名の筐の底からとり出し、眺め、手に擦って束の間の安心に浸る。 **ウ** の日々が亡びることはあっても、 **エ** はそれ以上亡びることがないのかもしれない。<sup>\*</sup> なかにし礼の「自由の女神」という歌の中に、〈私の心にポツカリとあいた／小さな穴から青空が見える〉というフレーズがあるが、人はこの一瞬の青空を仰ぐために、人生の玩具箱から、次々と忌まわしい記憶を拾い出しては、可愛がるのではなからうか。

そうした奇妙な人の習性は、文化の中にもしばしば現れるようだ。たとえば、一九九二年にベルリンで開かれた、「かつてのナチによる頹廢美術展」というのがある。若いころ画家を志したアドルフ・ヒットラーが、ココシュカやパウル・クレー、ゴッホやピカソやカンディンスキーなどを、彼の独断で〈頹廢〉と決めつけ、それらの画家たちの作品を、小塚原の曝し首みたいに、

ミュンヘンの〈ドイツ美術館〉に集めて展示したのは一九三七年のことだったが、それを半世紀を経て再現しようとしたのである。その意図は言うまでもなく、三〇年代から四〇年代へかけてのナチの暴虐を思い出させ、ヒットラーの大罪を裁こうとするものだったが、第二次大戦後間もなくならいざ知らず、五十年という時が過ぎ去ったとき、皮肉なことにヒットラーの血走った目の中に、一つの確かな〈批評の目〉があるのを発見した一部の人たちがいた。私はその展覧会を特集した美術雑誌と展覧会のパンフレットを見ただけで、ベルリンの展覧会へはいっていないのだが、その雑誌の論調はヒットラーに劣らずヒステリックだった。圧迫者と被圧迫者という公式的な構図の中で、頽廢と罵られた画家たちをジュン<sup>①</sup>教者のように崇め、ヒットラーを芸術を侵す狂人、サディストと糾弾する文章の数々は、視点を一八〇度変えて見たとき、加害者と被害者がそっくり入れ替わっただけの話で、その論拠、定義、口調などは、

a

おなじであった。〈歴史的正義〉だけに寄りかかって人を裁くということは、何

と空しいことだろう。この〈頽廢美術展〉を企て実行した人たちや、彼らに迎合して提灯を振った、わが国を含めて世界の多くの美術家たちには、かつての独裁者にさえ仄見えた〈批評の目〉など、どこにもなかったのである。

けれど、問題は〈頽廢〉とされて曝し首になった画家がいるなら、そのころナチが認め、称揚した画家や作品があったということだ。九二年の展覧会では、それらの絵も展示され、半世紀前とおなじように、立場を逆にして〈頽廢〉と侮られていたが、私はどうしてか、むしろそれらの方に〈美〉を見たのである。たとえば、パウル・パドウアの「レダと白鳥」や、ゼップ・ヒルツの「田舎のヴィナス」という裸体画や、これも裸の女が三人水辺に憩うエルンスト・リーバーマンの「水辺にて」<sup>②</sup>などを見ると、展覧会のパンフレットには〈歪んだ官能、俗悪の華〉と指弾されているのに、私の胸の底には、微かな音を立てて<sup>③</sup>「セキヤ」おなじように、あるいはもっと激しくその〈美〉を感じる人たちがいるのではなからうか。彼らにとって「レダと白鳥」<sup>④</sup>は、セキヤの恥部である。世界に向って差し出した五十年の借用書のはずである。けれど美しいものの前に放心するのが芸術の素朴な姿であるならば、<sup>2</sup> b に気兼ねすることなどないのだ。美しければ、それがすべてなのだ。原初の神々に憧れたヒットラーと、ギリシャの肉体に恋着した三島由紀夫は、もしかしたらおなじ眷属なのかもしれない。



ドイツは、近代史の中で、二度にわたって敗者にならなければならなかった。誇り高い民族にとって、それは例えようのない屈辱だった。最初の第一次大戦の後、ドイツの人たちは、露出狂のように、スカートの裾を上げて生乾きの疵を、文化の中に、これ見よがしに曝してみせたのである。窮乏に堪えながら、秘かに心だけは売ろうとしなかったし、どこかの国の戦後のように、うなだれた羊になることも無言で拒んだ。<sup>3</sup>そしてベルリンに、ミュンヘンに、真正の〈頹廢〉が生れた。〈頹廢〉の成分は、滾るように熱い羞恥心と、黄昏の落日の色と、万一の蘇生への渴仰である。頹廢が咲かせた花々は、大音響とともに夜空に打ち上げられる花火のように大きくもなく、美しくもなく、例えて言うなら、深夜の沼地のここかしこに揺れる不吉な狐火に似ていた。見つめれば消え、ふと気を逸らせるとまた現れる妖しい火は、いずれ巨大な焰となって燃え盛る日のための、種火だったのである。

(久世光彦「地底の歌」による)

注

\* 谷崎の「人面疽」……谷崎潤一郎の短編小説「人面疽」

\* デイートトリツヒ……マレーネ・デイートトリツヒ(一九〇一—一九九二)はドイツ出身の女優・歌手。引用されるのは「望み

は何と訊かれたら」という歌の一節

\* なかにし礼……小説家、作詞家(一九三八—)

\* 小塚原……江戸時代から明治初期にかけて存在した刑場

問一 傍線①③④のカタカナの漢字と同じ漢字を含むものを、また②の読み方として正しいものを、それぞれの群から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は①が 9、②が 10、③が 11、④が 12。

① ジュン教 A 法令をジュン守する B ジュン職した刑事

C 聖地をジュン礼する D ジュン真な子ども

② 微かな音 A たおや B ほの

C かす D おだや

③ チョウ明 A すみきった心 B ながめのよい丘

C さわやかなあさ D 山のいただき

④ セキ年 A セキ日の面影 B セキ載量を超える

C 痕セキを探す D セキ寞とした思い

問二 傍線1「逆説」とはどのようなことか。その説明として最も適切なものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

13。

A 幸福であればあるほど必ず「不幸」は大きくなっていくこと。

B 「不幸」はそれを嫌えば嫌うほどなくならないし癒えないこと。

C 幸福な人間は実は「不幸」であり「不幸」に取り憑かれていること。

D 「不幸」は消し去りたいものであるが実は人はそれを求めていること。

問三 空欄

ア

イ

エ

に当てはまる語の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマ

ークせよ。解答番号は 14。

A ア 不幸

イ 幸福

ウ 不幸

エ 幸福

B ア 不幸

イ 幸福

ウ 幸福

エ 不幸

C ア 幸福

イ 不幸

ウ 幸福

エ 不幸

D ア 幸福

イ 不幸

ウ 不幸

エ 幸福

問四 空欄

a

に当てはまる言葉として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

15。

A 〔批評の目〕を持たない者と

B 批評家の物真似をしているのと

C ヒットラーに迎合した者と

D ヒットラーの物真似みたいに

問五 空欄

b

に当てはまる言葉として、最も適切なものを次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

16。

A 習性や文化

B 独断や糾弾

C 歴史や正義

D 官能や俗悪

問六 傍線2「三島由紀夫」とあるが、次の中から彼の作品を一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 17。

A 痴人の愛

B 仮面の告白

C 眠れる美女

D 南京の基督

問七 傍線3「そしてベルリンに、ミュンヘンに、真正の〈頹廢〉が生れた」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切な

ものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 18。

A 屈辱を受け入れつつ誇りも捨てずに生きるには、醜悪さに美を見出すしかなかったから。

B 自分たちの文化の傷つけられた面を曝すことで、屈辱を乗り越えることができたから。

C 屈辱を受け入れることを拒否することは、民族に誤った道を進ませることになったから。

D 民族の誇りが傷つけられたため、それに代わるものとして倒錯的な美を求めたから。

問八 次の中から本文の内容と合致するものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 19。

A 〈不幸〉の中にこそ本物の幸福があるが、美術や芸術を〈美〉という基準のみで評価することは、圧迫と加害をもたらす危険を伴い、それはやがて本物の〈不幸〉をもたらすことになってしまう。

B 人間にとって〈不幸〉はなくてはならないものであり、それがなくては〈美〉も実現されないが、これまでの歴史上、その最高峰とも言えるのが第一次大戦後のドイツで生まれた美術である。

C 〈不幸〉を拾い出しては可愛がってしまう人間の習性は、暴虐と大罪を犯したヒットラーのような存在も生み出したが、ヒットラーが美術に確かな〈批評の目〉を持っていたことも忘れてはならない。

D 〈不幸〉があつてこそ人間は幸福に生きることができ、〈不幸〉からは一種の美も出現するが、そのようにして生まれた第一次大戦後のドイツ美術は、その価値が十分に評価されていない側面がある。



(三)

次の文章は、藤原定家作と言われる『松浦宮物語』の一節である。遣唐副使として日本から渡った氏忠が、唐における国軍と燕王軍の戦いにおいて国軍側に加わり、燕王軍の將軍宇文文会らを破る武功を遂げた後に続く部分である。これを読んで、後の問に答えよ。

このたびのいくさ、また異人の力を借らず、宇文文会が友八人、胡の国のすぐれたる兵七十余人を、塵灰にうち砕きつること、また手を交へる人もなければ、いささかもその後を誇らず、恐れ慎みて、授けられし官位を返したてまつる。

「いくさの陣に交はりて、仇に向かふ時に、一旦の名を借らずは、その威ありがたきによりて、なまじひに返さひ申さざりき。年若く才おろかなる旅人の身に、さらにたふべきにあらざり」と申しのがるるを、后、さらに許し給はず。

「天の授くる所ありて、横さまのいくさ、ひと時に滅びぬれど、国を背きしともがら、その数いまだ尽きず」とのたまひて、なほ九重の御門をいましめまもらせ給ふ。

燕王に従ひて、心よりほかに催し出だされしは、みな許し給ふ。こなたより逃げのがれて向ひしともがらは、尋ね出でらるるに従ひて、命を失ひて家を滅ぼさる。

いくばくの日数にあらず、天下治まりはてて、帝、位につき給ふ後にぞ、父帝の御葬りのことなど、かれもこれも、儀式をととのへ、さまざまあるべき作法を尽くされける。世の中、諒闇なる上に、後の御おきて、ひとへに儉約を先として、よろづのことにつけて人のわづらひをはぶかる。民の力をいたはり、おほやけの責めをとどめて、樂しび喜ばぬたぐひなし。

早朝に朝堂に薄物の帳を垂れて、日ごとにきこしめすことはてて、露寝に入り給ひては、才ある限りを召し集めて、文を講じ理を論じて、帝を教へすめたてまつり給ふ。朝夕に国の榮え民安かるべき道のみ、聞こえしらせ給ふ。帝いはけなくおはしませど、父帝・母后にもなほ進みて、昔の聖の御代を慕ひ給ふ事深ければ、なべての人も、心をつくろひ身を慎みて、今よりなびき従ひたてまつる。ただ二三十日に、島のほかまでのどかに治まりぬ。



かかる中にも、ただ人しれず、もとの国に帰らなむことをのみ願ひ思へど、限りある跡によりて、三年を過ぐすべき上に、い<sup>e</sup>やしき際にだに、位を授けられぬる人は、帰るならひなしとのみ、人も誇り思へれば、わづらはしかるべけれど、「これは、な<sup>f</sup>にのためしをもしらず。ただ思はむ心ざしを違へじ」と、后の心を尽くしていたはり給ふ。冬のほどは海のおもて荒れて、人の通ふためしなれば、春を過ぐすべきよしをのたまはすれば、月日を待ちつつ明かし暮らす。

注

\*手を交へる……協力して助ける

\*なまじひに……わざわざ

\*返さひ……返上し

\*諒闇……帝が父母の喪に服する期間

\*朝堂……帝が政務を行うところ

\*露寝……帝や諸侯の正殿

問一  で囲んだ「る」と同じ意味・用法のものを、本文中に二重傍線を付した次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 。

- A 申しのがるるを
- B 出だされし
- C 滅ぼさる
- D 尽くされける

問二 波線ア「いはけなく」の意味として最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 。

- A 物静かで
- B 円熟して
- C 幼く
- D 不誠実で

問三 傍線 a「さらにたふべきにあらず」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 22。

- A 官位につく能力は到底ありません
- B 官位につくことでは到底我慢できません
- C 官位につくことには到底満足できません
- D 官位を辞退することは到底できません

問四 傍線 b「なほ九重の御門をいましめまもらせ給ふ」とあるが、后が氏忠にこのようにさせた理由として、最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 23。

- A 功績の大きかった氏忠には、その報奨として重要な職階を与える必要があると考えたから。
- B 先帝から新帝への政権委譲を円滑に行うには、儀式や作法を重んじる必要があると考えたから。
- C 儉約を旨とする新しい政治を成功させるには、監視を厳しくする必要があると考えたから。
- D 敵軍は敗れても、国に刃向かう者はまだ残っており、それに対処する必要があると考えたから。

問五 傍線 c「楽しむ喜びぬたぐひなし」とあるが、なぜこのような状態になったのか。その理由の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 24。

- A 敵であった燕王に心ならずも従った人々を許したから。
- B 民衆の努力をねぎらい、国への負担を軽くしたから。
- C 儉約を至上として、すべての病人をいたわったから。
- D 亡くなった先帝の葬儀を豪華に執り行ったから。

問六 傍線d「日ごと」にきこしめすことはて」の解釈として最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。

解答番号は 25。

- A その日その日のお食事が終わって
- B その日その日のお召し替えが終わって
- C その日その日の御勉強が終わって
- D その日その日の御政務が終わって

問七 傍線e「いやしき際にだに、位を授けられぬる人は、帰るならひなしとのみ、人も誇り思へれば、わづらはしかるべけれ

ど」の説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 26。

- A 心のいやしい人に、氏忠は官位を授かったことをいいことに母国に帰る気持ちもなくなると批判を受けるのが、いやな気持ちがある。
- B 心のいやしい人に、氏忠は官位を授かったからには母国に帰るわけにはいかなかったとあれこれ言われることが、いやな気持ちがある。
- C 低い身分であっても、官位を授かったら母国に帰れたためしがないというから、高い身分の氏忠であれば、帰国は困難ではないかと心配に思っている。
- D 低い身分なら、官位を授かっても母国に帰れる慣例はあるが、氏忠のような高い身分であれば、帰国は困難ではないかと心配に思っている。

問八 傍線 f「のたまはすれば」の主語は誰か。次の中から、最も適切なものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は

27。

- A 昔の聖                      B 先帝                      C 后                      D 氏忠

問九 次の中から、本文に書かれていないことを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 28。

- A 后は、日本に帰りたいたいという氏忠の望みを叶えてやりたいと思っていた。  
B 氏忠は授かった官位を返上しようとしたが、后はこれを許さなかった。  
C 自陣から逃げ出して裏切った人々は、見つけられたら一族ともども命を失った。  
D 燕王軍と国軍との戦いは、世の中を暗くし、人々の心を荒廃させた。

問十 次の中から、藤原定家と最も関わりが深いものを一つ選び、その符号をマークせよ。解答番号は 29。

- A 十六夜日記                      B 明月記                      C 太平記                      D 海道記